

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



「『夢託す 小さな苗に 大きな未来』平成28年度石川地方植樹祭」

(撮影者：福島森林管理署白河支署)

● 民有林と国有林との連携による森林共同施業団地の設定について	技術普及課・2
● 各地域の代表市町村長との「国有林野所在市町村長有志連絡協議会」を開催	企画調整課・・・3
● 福島県中通り地区における「国有林野所在市町村長有志連絡協議会」の開催	福島森林管理署・・・3
● 赤谷の森から	赤谷森林ふれあい推進センター・・・4
● 森づくり最前線	
下越森林管理署 三川森林事務所 森林官 細野 勝男	・・・6

民有林と国有林との連携による森林共同施業団地の設定について
、群馬県みどり市、静岡県掛川市における「森林整備推進協定」の締結

森林整備部 技術普及課

国有林では、地域の森林整備の低コスト化・効率化等を推進するため、国有林周辺の民有林所有者や集約化を進める林業関係者等と森林整備の推進に関する協定を締結し、協定区域内で設定した森林共同施業団地において、民有林と協調した森林整備を進めています。

関東森林管理局では、平成28年12月末現在、19件の森林整備推進協定を締結しています。

今年度はこれまでに群馬森林管理局及び天竜森林管理局において新たに協定を締結し、森林共同施業団地を設定しましたので、これらの取組についてご紹介します。

みどり市地域森林整備推進協定

【群馬森林管理局】

平成28年11月29日に、みどり市、わたらせ森林組合、桐生広域森林組合、群馬県桐生森林事務所、群馬森林管理局の5者で「みどり市地域森林整備推進協定」を締結しました。

この協定は、みどり市の森林・林業の活性化に向け、協定者が連携・協力して、効率的な路網整備や間伐等の森林施業を実施し、地域材の安定供給に取り組むこと等を目的とし



協定調印式（みどり市）

ています。

協定区域は、みどり市内のほぼ全域の森林で、同市東町小夜戸地区及び大間々町小平地区を主とする民有林と国有林を森林共同施業団地として設定しました。団地面積は1529畝（民有林1122畝、国有林407畝）で、関東地方では最大の規模となります。

団地においては、5年間の森林整備実施計画に基づき、約2万9千畝の路網整備と約1万9千m³の木材生産を目指します。

平成29年度から、民有林と国有林を連結した林業専用道・森林作業道の整備と相互利用、民有林材と国有林材の協調出荷、森林施業に関する技術交流等に取り組む予定です。これらの取組により、事業の低コ



森林共同施業団地の一部
（みどり市東町小夜戸）

スト化や効率化が図られ、地域材の生産拡大や安定供給に貢献することが期待されます。

黒俣地域森林整備推進協定

【天竜森林管理局】

平成28年12月8日に、掛川市、掛川市森林組合、天竜森林管理局の3者で「黒俣地域森林整備推進協定」を締結し、市有林・私有林・国有林からなる森林共同施業団地を設定しました。

この協定は、掛川市黒俣地域の森林・林業の再生に向け、森林の多面的機能の高度発揮と資源の循環利用を図るため、協定者が連携して団地化を推進し、効率的な路網整備や間伐等に取り組むことを目的としてい



高性能林業機械による集材・造材作業
（掛川市黒俣地域民有林）

関東森林管理局においては、今後も森林共同施業団地における取組を始め、民有林と国有林が連携して行う取組を積極的に推進し、林業の低コスト化等を実践することにより、地域林業の活性化に貢献してまいります。

ます。団地面積は、320畝（民有林194畝、国有林126畝）で、民有林と国有林の森林作業道を連結するなど、計画的な路網整備を進め、高性能林業機械による効率的かつ低コストな間伐の実施に努めるとともに、中間土場の相互利用にも取り組みます。具体的には、森林整備実施計画に基づき、平成30年度末までに、約9千5百畝の路網整備と約45畝の間伐を実施することとしています。これらの取組により、地域材の安定供給を図り、当地域の林業振興に貢献していくこととしています。

各地域の代表市町村長との「国有林野所在市町村長有志連絡協議会」を開催
総務企画部企画調整課

関東森林管理局では、国有林野が所在する地域の市町村長との会議を管内の各地で開催するとともに、各地域の代表市長村長による「国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を年一回開催しています。

今年度は11月14日(月)に13地区の代表市町村長等にご臨席いただくとともに、林野庁本庁からは原田経営企画課長及び井口木材製品技術室長、関東森林管理局からは漆原局長、平野次長ほか関係者が出席し、東京都千代田区の農林水産省三番町共用会議所において開催しました。

会議の冒頭、漆原局長から「林業の成長産業化に向けて地域の皆様と連携しながら率先して取り組んでいく」旨の挨拶のあと、林野庁から最近の森林・林業を取り巻く情勢等、関東局から森林施業の低コスト化の取組等について説明を行いました。



協議会 (東京都千代田区)

意見交換では、東日本大震災からの復興支援、林地台帳の整備、森林環境税の導入、シカ・クマ対策、漆生産、レクリエーションの森の有効活用、木質バイオマス発電等の課題についてご意見・ご要望がありました。

いただいたご意見・ご要望については、林野庁及び関係森林管理署等と連携して期待に応えられるように取り組んでまいります。

福島県中通り地区における「国有林野所在市町村長有志連絡協議会」の開催
福島森林管理署

福島森林管理署では、阿武隈川下流域(福島署)、阿武隈上流域(白河支署)、奥久慈流域(棚倉署)の3地域合同による国有林野等所在市町村長有志協議会を年一回開催しています。

今年度は、10月20日(木)に屋内での意見交換等に加え、「林業の低コスト化の普及・定着」の一環として、コンテナ苗や列状間伐の実施箇所の視察を行いました。

出席いただいた各市町村長や関係者の方々に、コンテナ苗の特徴や植栽方法の説明後、実際に植栽を体験していただきました。

また、列状間伐箇所では、メリツト等の説明と、委託業者による伐採や集材の実演が行われました。

出席者からは、民有林での林業経営にも大変役立つとの声がありました。今後も「地域に貢献する」国有林としての取り組みを行ってまいります。



列状間伐の説明



市町村長によるコンテナ苗の植樹体験



赤谷森林ふれあい推進センターでは、今年も多くの森林環境教育活動を実施しました。当センターは、赤谷プロジェクトとして森林の生物多様性保全に取り組んでおり、その経験を森林環境教育にも取り入れながら、毎年少しずつ改良を重ねています。

また、赤谷の森やその周辺のフィールドを活用した屋外での森林環境教育活動や、小学校への訪問活動も実施しています。

今年実施した主要な森林環境教育活動を振り返りながら、その内容を紹介したいと思います。

1 高原千葉村と連携した「森の探検ウォークラリー」

赤谷の森が所在するみなかみ町相俣地区には、千葉市の保養施設「高原千葉村」があり、みなかみ町の小学校や千葉市の中学校が森林環境教育に活用しています。赤谷センターでは、これら小中学生を対象に森林環境教育プログラム「森の探検ウォークラリー」を実施しています。「森の探検ウォークラリー」では4〜5種類のプログラムを行います。

「森の恵みと樹木の種子の話」では、森林の公益的機能や生物多様性が人の暮らしにどう関わっているかを解説し、また、種子の模型ロケットリリーフを作り、種がどのように飛んで拡がるかを体験します。

「ターゲットアニマル」では、夏場のスキーゲレンデを利用し、猛禽類調査で使用するフィールドスコップや双眼鏡を実際に使い、モニタリング体験を行います。猛禽類の調査方法やなぜ調査をするのか等についても解説します。

「トレジャーカード」は、モニタリング調査時に使用する無線機を使用し、赤谷の森に生息する生き物をラミネートカードにした野生生物カードを、無線機で送信しながら探すゲームです。ゲームを通じ、赤谷の森にどんな野生生物がいるか、森林の生物多様性について学習してもらいます。

最後に、自分で作ったロケットリリーフを全員で飛ばして滞空時間を競うゲームや、丸太切り競争で林業に触れる体験などを行い、全プログラム終了となります。

【平成28年度に高原千葉村で「森の探検ウォークラリー」を実施した小中学校】

- 7月…新治小学校5年生サマースクール
- 8月…さの子どもエコ教室(高崎市)
- 9月…千葉市立草野中学校、朝日ヶ

- 丘中学校
- 10月…沼田北小学校
- 11月…千葉市立花見川中学校



ロケットリリーフ大会



モニタリング調査体験

今月の表紙
「『平成30年第69回全国植樹祭に向けて』平成28年度石川地方植樹祭開催」

平成30年に福島県南相馬市海岸防災林造成地で「第69回全国植樹祭」が「育てよう 希望の森をいのちの森を」をテーマに48年ぶりに福島県で開催されます。

現在県内では「森林(もり)とのかきずなづくり植樹リレー」として、各地域の植樹祭開催地をリレーして全国植樹祭までつないでいきます。そのバトンを猪苗代町から引継ぎ、国土緑化石川地方推進委員会及び福島森林管理署白河支署が主催する「平成28年度 石川地方植樹祭」が「夢託す 小さな苗に 大きな未来」をテーマに11月7日開催されました。

会場の玉川村「大寺城跡公園」に、関係者120名が参加し、緑化功労者表彰、記念植樹が行われました。白河支署職員も植樹の実演・指導を行いました、参加した



須釜小学校6年生28名と一緒にイロハモミジを植樹しました。

2 新治小学校の旧三国街道遠足と事後学習、親子どんぐり拾い



新治小学校旧三国街道遠足

赤谷の森のあるみなかみ町新治地区の新治小学校には、赤谷プロジェクトでも様々な機会を通じ、森林環境教育を実施しています。5年生はサマースクールで「森の探検ウォークラリー」を、6年生には、秋に赤谷の森にある旧三国街道の遠足と、後日に振り返りを行う事後学習を実施しており、これらの活動は赤谷プロジェクト3者（赤谷プロジェクト地域協議会、日本自然保護協会、関東森林管理局）で連携して実施しています。遠足では山を歩きながら、森林生態系やフィールドサイン、旧三国街道の歴史について解説し、また、児童とセンサーカメラを設置します。後日、小学校の授業時間で行う事後学習では、現地で解説した内容を振り返り、また、一緒に設置したセンサーカメラの写真を確認し、赤谷の森の野生生物の姿を確認します。

この学習を通じて、子ども達に、自分の住む地域の豊かな森林生態系がある、地域の

歴史について学習し、地域に誇りを持つてもらうことを目的にしています。

また、今年新たに、地域の子供達の赤谷の森への理解を深め、赤谷プロジェクトで行っている自然林復元と一緒に取り組むため、天然更新による自然林への誘導が困難な林分で、赤谷の森のどんぐりを拾って苗を作り、植樹していく活動を、プロジェクト3者と新治小学校、PTAとの協力により始めました。

生徒達が、将来自分たちで育てた森を見られるよう、今後も毎年どんぐり拾いと前年に作った苗の植栽活動を継続していくこととしています。



親子どんぐり拾い

3 放課後子供教室

みなかみ町では、児童が放課後に安全・安心に過ごすことのできる居場所を作ることが目的として、地域の教育活動サポーターが小学校で「放課後子供教室」を実施していま



森と人とのつながり話

赤谷センターでは、この活動と連携し、昨年度から今年にかけて、みなかみ町の小学校

全6校において森林環境教育プログラムを提供しました。

小学校の校舎内または校庭で行う活動のため、森林と人とのつながりの話やネイチャークラブ等のプログラムを行いました。

学校によっては低学年だけの場合や、1年生から6年生まで一緒に活動する場合もあるため、プログラムの内容は少しずつ調整しながら、教育活動サポーターの方と協力して行っています。

また、この活動は、赤谷プロジェクト地域協議会とも連携して活動しています。



森のかけらストラップづくり

【実施した小学校】

- 平成27年
- 11月…新治こども教室（新治小学校放課後こども教室）
- 平成28年
- 2月…北つ子くらぶ（月夜野北小学校放課後こども教室）
- 3月…藤原小学校放課後こども教室
- 7月…北つ子くらぶ（月夜野北小学校放課後こども教室）
- 10月…ももの子くらぶ（桃野小学校放課後こども教室）
- 11月…岳の子（たけのこ）クラブ（水上小学校放課後子供教室）、古馬牧っ子（こめまきっこ）わくわく教室（古馬牧小学校放課後こども教室）



落ち葉のタペストリー

赤谷センターでは、このような赤谷プロジェクトの取り組みと連動した森林環境教育活動を今後も新たなアイデアを取り入れながら続け、地域内外の方に森林の大切さや赤谷の森のことをより知ってもらえるよう活動していきたいと考えています。

森づくり最前線

下越森林管理署 三川森林事務所 森林官 細野 勝男



天然記念物「将軍スギ」

私が勤務する三川森林事務所は、新潟県東部に位置する阿賀町(旧三川村)にあり、約6700haの国有林を管理しています。阿賀町は、町の面積としては新潟県内最大であり、下越森林管理署管内の国有林面積が最も多い市町村です。

同町の平等寺境内には、日本一と言われ、国の天然記念物にも指定されている「将軍杉」(樹齢約1400年(推定)、樹高38m、幹周19.31m)があります。また、民有林内にも多くの天然スギが点在する自然豊かな地域です。収穫調査等で国有林内を歩いていると、巨大な天然スギやその切り株に出会い自然の偉大さに息をのむことが度々あります。

当事務所管内では、平成27年10月に、新潟県、新潟県農林公社、阿賀町、東蒲原郡森林組合、下越森林管理署の5者により「阿賀地域民団連携森林整備推進協定」を締結しました。中ノ沢地区と新谷・松野地区に167ha(うち国有林89ha)の団地



新植2000本/ha



阿賀町中ノ沢「大スギ」

また、クマ剥ぎに関する地域の関心も高いことから、本年10月に、森林整備推進協定者である新潟県農林公社の主催で、中ノ沢地区の民有林において、地域住民や関係者を対象とした「クマの皮剥ぎ被害対策研修



クマの皮剥ぎ研修会

を設定し、施業を進めています。今年度は、国有林において、新植(スギ1.77ha、2000本/ha)を施行しました。来年度は、主伐・間伐、新植や森林作業道の整備等を進める予定です。

このような中、現在の悩みの種がクマによる皮剥ぎの被害です。対策として、職員により、各種保護テープ、成長物バンド(宇都宮大学小金沢教授考案)の巻付け等を行い、その効果やコストを調べているところです。

また、クマ剥ぎに関する地域の関心も高いことから、本年10月に、森林整備推進協定者である新潟県農林公社の主催で、中ノ沢地区の民有林において、地域住民や関係者を対象とした「クマの皮剥ぎ被害対策研修



成長物バンド実技

会」が開催されました。新潟のテレビ局が取材する中、新潟大学の教授による「クマの生態と皮剥ぎ被害について」の講話の後、現地で当署森林技術指導官が成長物バンド等の保護テープの巻き方について説明し、参加者がスギ立木に保護テープの巻付け作業を行いました。

三川森林官として2年目ですが、地域との連携・施業の低コスト化などを念頭にこれからもしっかり業務を進めたいと思います。

発行所 関東森林管理局
編集総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 230-1393